

【政治】

埼玉知事選 安保逆風で自民系敗北

2015年8月10日 朝刊

自民党は九日投開票の埼玉県知事選で、県連が元総務官僚の新人塚田桂祐氏を推薦したが、現職上田清司氏に敗北した。自民党は来月の岩手県知事選でも「不戦敗」が確実。安倍政権の支持率も安全保障関連法案の審議などをめぐって低下しており、逆風が強まっている。（宮尾幹成、谷岡聖史）

自民党県連は埼玉県知事選で当初、自ら定めた多選自粛条例を破って出馬する上田氏を批判し、独自候補の擁立を模索した。「天皇陛下の執刀医」として著名な順天堂大医学部教授の天野篤氏に出馬を打診したが断られた末、塚田氏を県連推薦で擁立した。

だが上田氏には知名度で劣る上、党本部側は安保法案に対する批判もあって選挙戦の苦戦を予想。党本部推薦も見送り、執行部は「知事選には関わっていない。勝敗にはカウントしない」（幹部）と、選挙戦に深く関与する姿勢を見せなかった。

知事選で一票を投じた自民党支持者の中には、安保法案への反対意思を示そうと、塚田氏以外の候補に投票した人もいた。

元自民党さいたま市議の小松豊吉さん（81）は「あの法案は戦争法案だ。自分は根っからの自民支持者だが、安倍政権の強引なやり口は許せない」と上田氏に投票した。戦時中は東京・板橋に住んでいたが、空襲で自宅を焼かれ埼玉に越してきた。「孫の世代を戦場に行かせるわけにはいかない」と話した。

与野党対決型の知事選では、九月六日投開票の岩手県知事選で、自民、公明両党の支援が決まっていた元復興相の平野達男参院議員が今日七日に出馬辞退を表明。平野氏は記者会見で「国の安全保障のあり方が最重要課題へと浮上し、県政の在り方が論点になりづらい状況が生じてきた」と理由を説明していた。